

巨大給食センターではなく

中学校に給食施設を!



北陸新幹線地下延伸計画は中止を!



市会議員に押し上げていただき1年9か月、地域のみなさんから京都市に対するご意見、ご要望を伺いながら奮闘中です。議会活動では、中学校給食に関する質疑は33回行い、巨大給食センターのリスクについて追及し、学校調理の全員制中学校給食を求めてきました。

希望する誰もが安全・安心な保育を定期利用できるよう、民間保育園への補助、保育士の待遇改善、すべての区役所に女性相談支援窓口設置、生活道路の改修、私道助成の拡充など求めてきました。

11月市会 代表質問にたちました



「京都市職員の管理職に占める女性割合の目標達成と区役所への女性相談支援員の配置を」「学校給食の安全と安定的な供給は、巨大給食センターではなく、学校調理でこそ」「戦後最悪の京都破壊、北陸新幹線京都地下延伸計画はきっぱり中止を」と市長に迫りました。



北陸新幹線延伸計画中止を

「小浜ルート」3案はいずれも右京区を通るため、ボーリング調査も右京区に集中しており、葛野小学校の目の前の三反田児童公園でも行われています。9月市会で安全面や地域に説明がないことなどについて追及しました。また、3ルート案どれも宇多野につくられる立坑(トンネルを掘るシールドマシンの発進基地)が起点となります。残土搬出などで国道162号線が大渋滞となることは明らかです。この問題について代表質問で取り上げました。

△三反田児童公園で行われたボーリング調査

学校調理の中学校給食を

巨大給食センターではなく、学校調理の中学校給食を求める声が市民の中で大きく広がっています。市長宛ての要望署名が短期間で35000筆以上集まり、現在も増え続けています。



△ 小学校のような全員制の中学校給食を求めるアピールウォーキング

能登支援 国は迅速な対応を

能登半島地震被災者▶
共同支援センターにて

7月、日本共産党京都市会議員団は、2回目の能登半島地震被災地の調査・支援活動を行いました。仮説住宅の訪問活動では「気力もお金もない」「復旧が遅い」との声を多く聞きました。被災者の人権の回復を国は責任をもって迅速に行うべきです。

